鹿児島県
ランピースキン病防疫対策会議

日　　時：令和８年 11 月２日（月）
　　午後４時～
場　　所：鹿児島県庁２階　県政広報室

会　次　第

１　開　会

２　挨　拶

３　内　容

（１）福岡県におけるランピースキン病の発生状況について

（２）海外におけるランピースキン病の発生状況について

（３）発生予防対策について

（４）その他

４　閉　会

鹿児島県
ランピースキン病
防疫対策会議

令和８年11月２日（月）
鹿児島県農政部家畜防疫対策課

（１）福岡県におけるランピースキン病の発生状況

（1）福岡県におけるランピースキン病の発生状況

1. 発生農場の概要



- 所在地：福岡県　みやま市
- 飼養状況：経産牛70頭、育成牛8頭、子牛15頭　計93頭
- 異常家畜の頭数：1頭

2. 経緯

- 令和8年10月31日（土）、診療獣医師より福岡県に通報
- 同日17時、福岡県が当該農場を現地調査
- 11月1日（日）、当該牛をランピースキン病の疑似患畜と確定

（1）福岡県におけるランピースキン病の発生状況

3. 福岡県における今後の対応

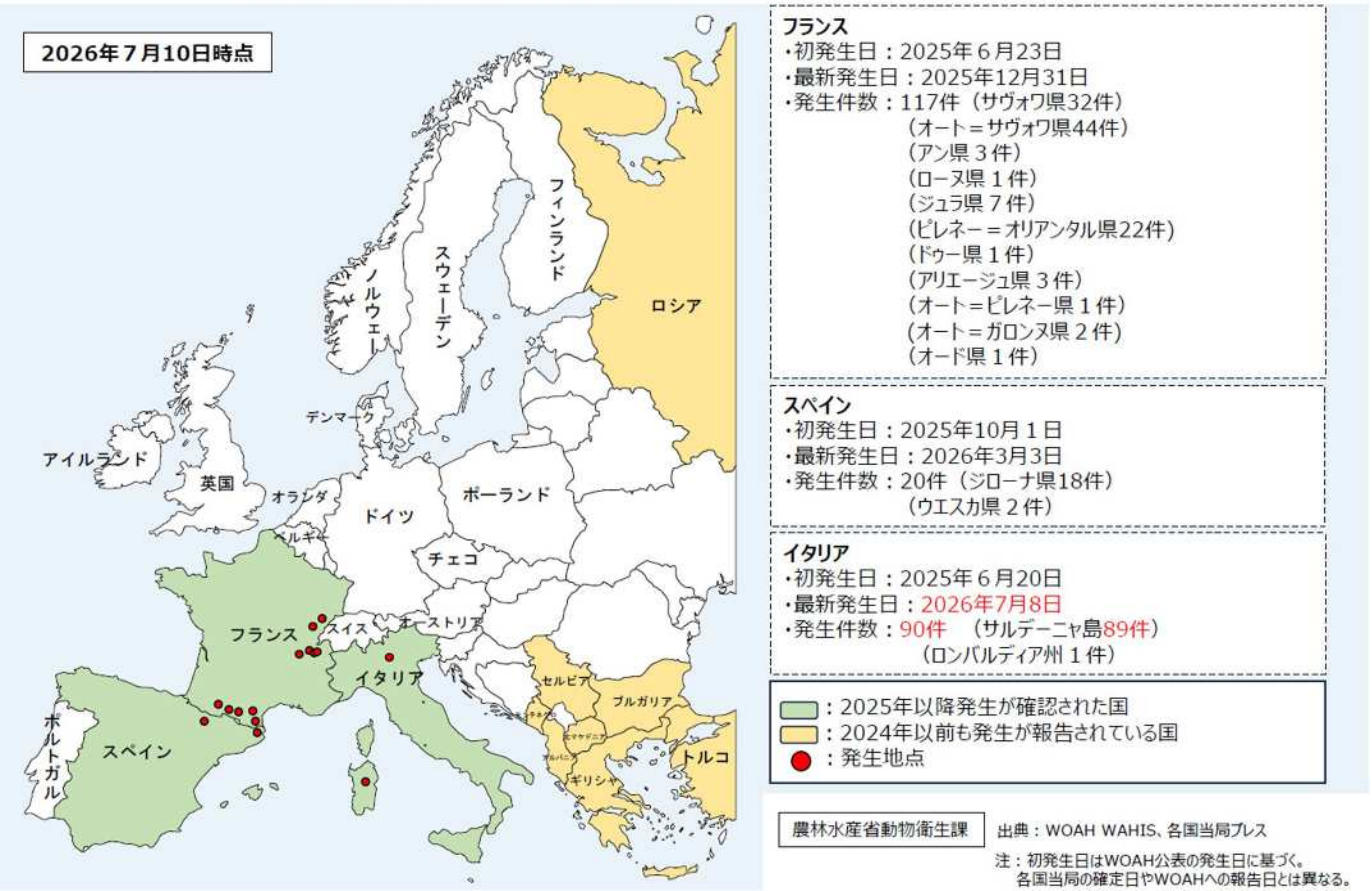
「**ランピースキン病防疫対策要領**」に基づき、以下の対応

- 当該疑似患畜1頭を殺処分
- 当該農場における**感染牛の隔離**、移動制限及び衛生害虫の対策を指示
- 当該農場への部外者の立入制限と**出入り時の消毒**徹底を指示
- 当該農場及び半径5km以内の5戸の牛飼養農場（516頭）に**ワクチン接種予定**（ワクチン接種完了後の移動制限期間は21日間）

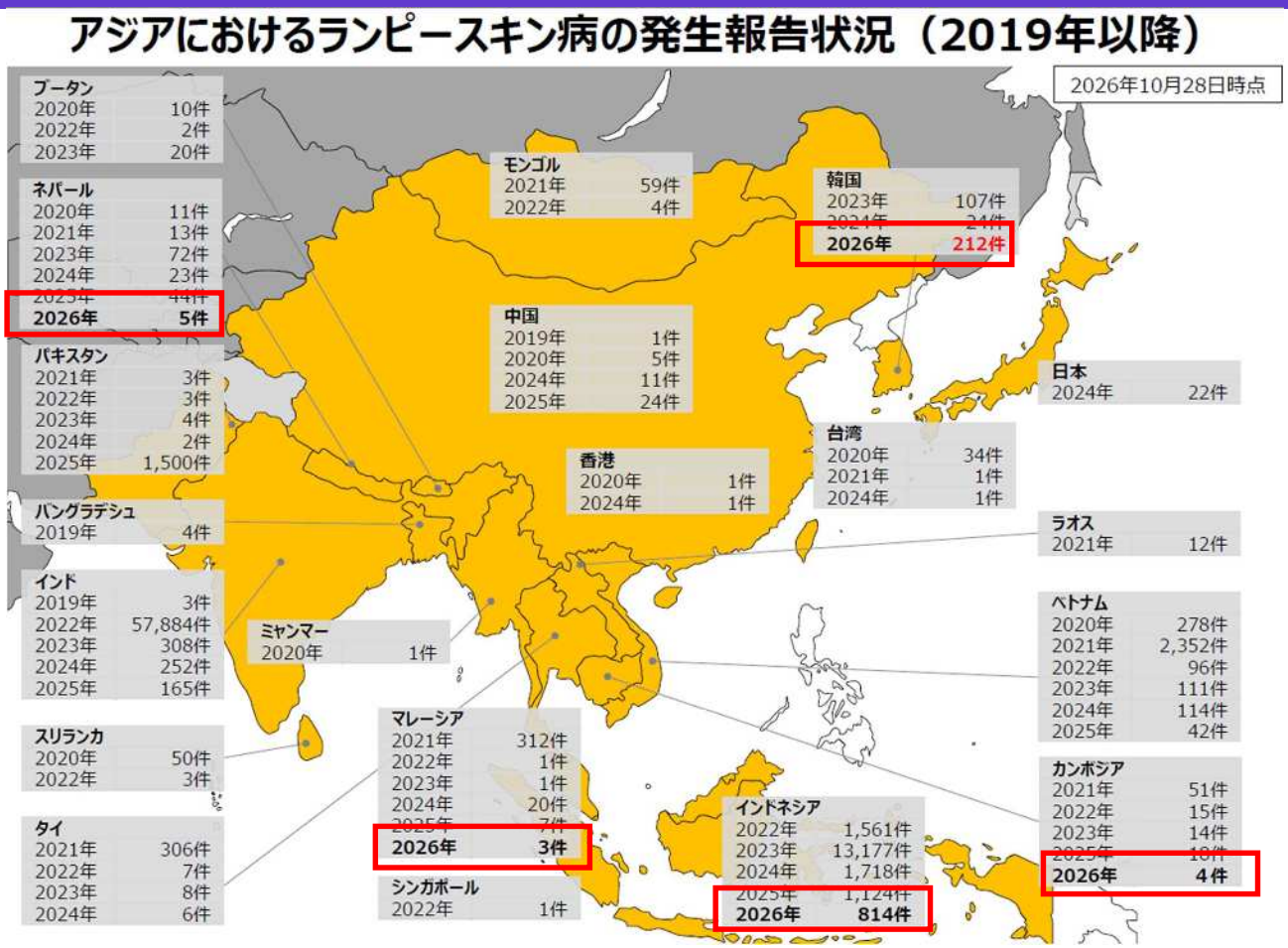
（2）海外におけるランピースキン病の発生状況

（2）海外におけるランピースキン病の発生状況

欧州におけるランピースキン病発生報告状況（2005年以降）



（2）海外におけるランピースキン病の発生状況



（2）海外におけるランピースキン病の発生状況

韓国におけるランピースキン病の発生状況

（2026年10月27日時点）

農林水産省動物衛生課

出典：韓国当局公表資料等を基に作成

	発生件数	殺処分対象頭数※
2023年	107件	6,455頭
2024年	24件	304頭
2025年	－	－
2026年	212件	－



：2026年に発生が確認された行政区画
：2024年が最終発生年（2025年以降、発生なし）
：2023年が最終発生年（2024年以降、発生なし）

江原特別自治道
最新発生日：2026年９月15日
発生件数：１件
※　2026年における初発日：９月15日

京畿道
最新発生日：2026年10月24日
発生件数：２件
※　2026年における初発日：10月18日

忠清南道
最新発生日：2026年10月20日
発生件数：35件
※　2026年における初発日：８月７日

全北特別自治道
最新発生日：2026年10月21日
発生件数：38件
※　2026年における初発日：７月10日

全南光州統合特別市
最新発生日：2026年10月22日
発生件数：100件
※　2026年における初発日：７月30日

済州特別自治道
最新発生日：2026年10月21日
発生件数：11件
※　2026年における初発日：９月７日

慶尚北道
最新発生日：2026年10月21日
発生件数：14件
※　2026年における初発日：９月26日

大邱広域市
最新発生日：2026年10月21日
発生件数：２件
※　2026年における初発日：10月13日

慶尚南道
最新発生日：2026年10月20日
発生件数：９件
※　2026年における初発日：10月６日

※：初発～2023年11月12日：発生農場単位で殺処分
2023年11月13日～2024年11月24日：感染牛のみ殺処分
2024年11月25日～：感染牛のみ隔離、一定期間を経て陰性が確認されれば、殺処分免除

（3）侵入防止対策

（3）侵入防止対策

ランピースキン病の病徴と発生状況

ランピースキン病

○ ランピースキン病は、牛の皮膚に病変等が生じる疾病であり、牛乳の生産等にも影響。致死性は低いものの、有効な治療法はない。人には感染せず、畜産物も食用上安全。

ランピースキン病とは、

- 皮膚の結節や乳量の減少等の症状を呈する、牛・水牛の**家畜伝染病**
- 主に**蚊等の吸血昆虫による機械的伝播により感染が拡大**
- 有効な治療法はなく、致死性は低いものの、**吸血昆虫等により急速にまん延**し、生乳の生産等のに影響を及ぼすため、殺処分による早期封じ込めが必要
- 人には感染せず、畜産物も食用上安全



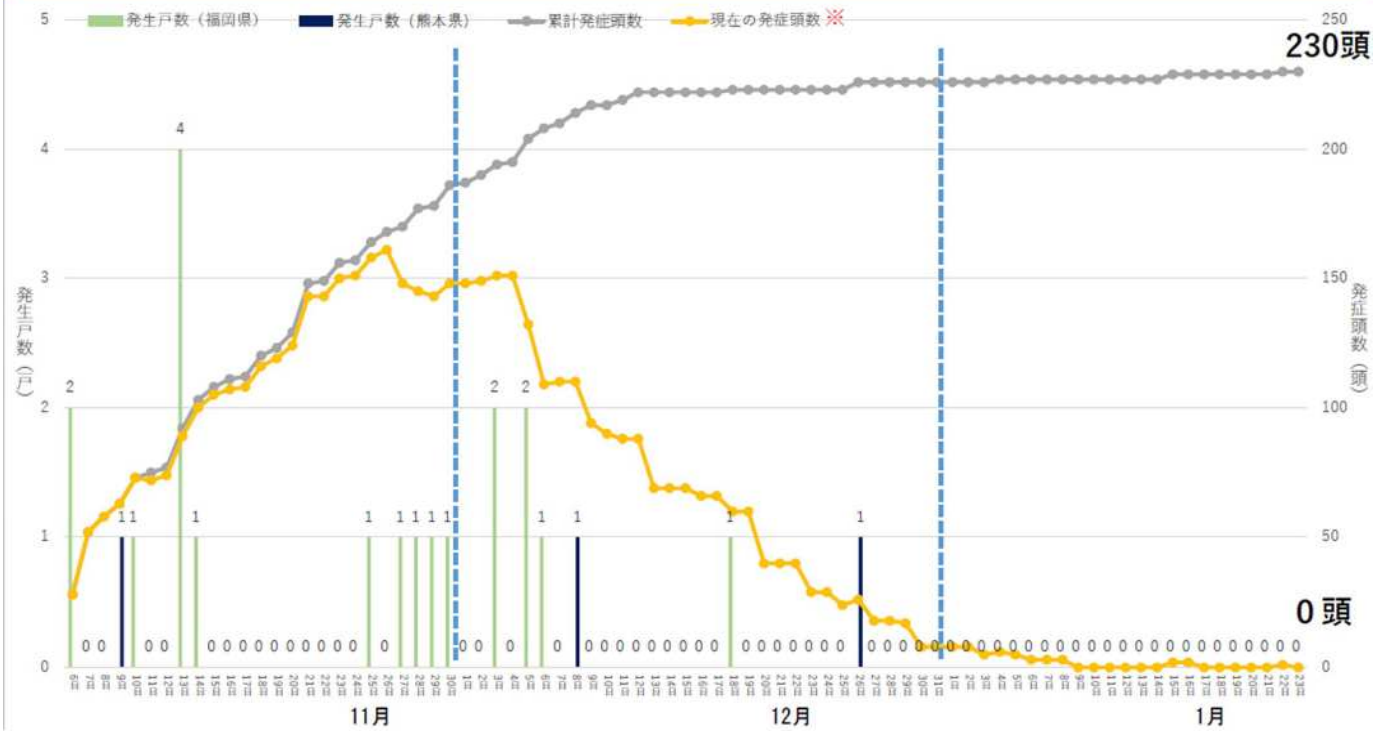


写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
(State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

（3）侵入防止対策

2024年における国内の発生経過

○2024年11月６日、福岡県の２農場で、国内初となるランピースキン病の発生。
○2025年１月23日現在、福岡県19例、熊本県３例の計22例の発生を確認。疑症牛を含めて、国内では累計230頭の発症を確認。



（3）侵入防止対策

ランピースキン病の家畜伝染病への追加

○ **ランピースキン病**は、皮膚病変に加え乳量低下や生乳の出荷停止により、**特に酪農に深刻な経済的被害**をもたらす。
○ 令和６年11月、**国内で初めて発生**。法的強制力のある防疫対策が行えず、**従来より感染力を増した変異ウイルスにより感染が拡大**。これを踏まえ、家畜伝染病予防法に基づき**時限的な政令を制定**。
○ 新たな発生は確認されていないものの、**海外で発生が継続**しているため、家伝法上の**家畜伝染病に追加し、継続して法的強制力のある防疫対策を実施できる体制を構築**。

ランピースキン病発生の経過

○ **令和６年11月**に、福岡県で**国内で初めての発生を確認**
○ 従来より**感染力が強いウイルスに変異**しており、**感染が拡大**

福岡県19事例、熊本県３事例
計22事例、230頭発症

[発症牛の後肢]



ランピースキン病対策の課題

○ 海外で発生が継続し、**国内での発生・まん延リスクは依然として高い**
○ 法的強制力のある防疫対策が行えるよう、**政令制定（有効期間１年限り）**

[ランピースキン病の発生報告]



家畜伝染病への追加

○ **ランピースキン病を家畜伝染病に追加**し、継続して法的強制力のある防疫対策を実施できる体制を構築

新たに義務付けられる主な対応

新たに
✓発症牛の隔離及び殺処分
✓緊急ワクチン接種
✓畜舎等の消毒
✓移動制限
等を義務付け

注：殺処分した牛や移動制限時の損失に対しては法に基づき支援

（3）発生予防対策

ランピースキン病防疫対策の概要

ランピースキン病

○ **令和8年5月家畜伝染病予防法が改正され、同年7月1日から、ランピースキン病が「家畜伝染病」に格上げ。**
○ **発症した牛の早期発見、家畜伝染病予防法に基づく隔離、殺処分、ワクチン接種等の対策が重要。**
○ **患畜及び疑似患畜が殺処分の対象となり、その死体が焼却等の義務の対象。**

発生予防のための飼養衛生管理基準の遵守

- 毎日の健康観察の徹底
- 殺虫剤や昆虫成長制御剤（IGR剤）の散布等によるベクター対策
- 器具等の洗浄・消毒
- 注射針や直腸検査に用いる手袋、人工授精用器具の１頭ごとの交換又は消毒

発生農場におけるまん延防止措置

- 患畜等の**速やかな隔離、殺処分**
- 畜舎等の消毒・ベクター対策
- **汚染物品の処理**（患畜等由来の生乳、発生農場由来の精液）
- 毎日の健康観察の徹底

移動制限等

- 発生農場及び発生農場を中心とした半径５㎞以内の農場の牛に対し、**他の農場、家畜市場等への移動の制限**が可能（と畜場への出荷は可能）
- ワクチン接種後21日間経過した牛の移動は可能
- 周辺農場における異状の有無の確認、健康観察及びベクター対策の徹底

ワクチン

- 予防的なワクチン接種は原則として実施しない（種畜、希少な展示動物を除く）
- 発生が確認された場合、原則として**発生農場及び発生農場を中心とした半径５㎞以内の農場の牛に対して、緊急的に接種**（まん延の可能性が低い場合は接種しないことも可能）
- 発生状況等に応じて20㎞までワクチン接種の範囲を拡大することも可能

（3）発生予防対策

毎日の健康観察の徹底






2024年に確認された発症牛

（3）侵入防止対策

毎日の健康観察の徹底





ランピースキン病を疑う症状
① **発熱**、活力の低下
② **皮膚の結節（数個～多数）**
③ 食欲低下
④ 泌乳量の低下
⑤ 鼻汁
⑥ リンパ節の腫大

毎日の健康観察の徹底

- **早期発見・早期通報**が最も重要
- 疑わしい牛は、隔離
- 牛の導入、出荷等の移動時は健康観察の徹底

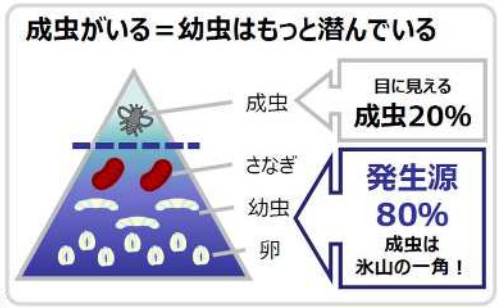
※感染していても症状を示さない牛がいる可能性があるので、**牛群全体の健康観察が重要**

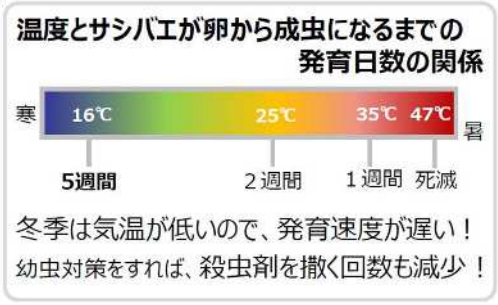
（3）発生予防対策

吸血昆虫対策の徹底

◆ランピースキン病は、主に**感染した牛の移動**と、**サシバエ**、蚊、ヌカカ、マダニ等の**吸血昆虫（ベクター）**による機械的伝播により感染が拡大。

◆**サシバエ対策**が重要
- 幼虫対策
  - 堆肥等の管理
  - **昆虫成長制御剤（IGR）**の散布
- 成虫対策
  - **防虫ネット**の設置
  - 殺虫剤の散布
  - 下草狩りや防草シートの設置





（3）発生予防対策

消毒の徹底

◆ランピースキン病の発生予防対策として、**人・物・車両**による**ウイルスの持ち込み防止**が重要

- 衛生管理区域に出入りする車両の**洗浄・消毒**、殺虫を徹底
- 農場ごとに**専用の衣服、長靴（ブーツカバー）の交換**
- 農場で使用する器具等の**洗浄・消毒**
- 注射針や直検検査に用いる手袋、人工授精用器具の**1頭ごとの交換**又は**消毒**

※有効な消毒薬：
ランピースキン病ウイルスは、エタノール、次亜塩素酸ナトリウム、逆性石けんなど、畜産現場で一般的に使用される多くの消毒薬に感受性があります。

（3）発生予防対策

発生予防のための飼養衛生管理基準の遵守

- 毎日の健康観察の徹底
- 殺虫剤や昆虫成長制御剤（IGR剤）の散布等によるベクター対策
- 器具等の洗浄・消毒
- 注射針や直腸検査に用いる手袋、人工授精用の器具の1頭ごとの交換又は消毒

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。
主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大

疑わしい場合は
直ちに連絡！

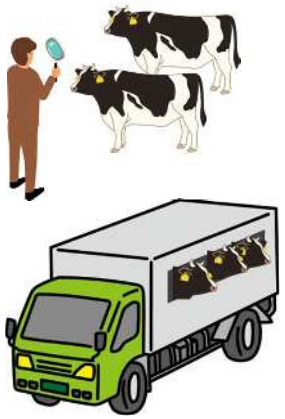


写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
（State Central Veterinary Laboratory in Mongolia）

ランピースキン病の侵入防止対策

01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、粘着シート等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。

ランピースキン病の感染拡大防止！
車両や人による
農場から農場への伝播を防止しましょう

ランピースキン病は、主にサシバエ等による機械的伝播により感染が拡大しますが、車両や人もウイルスを運ぶ可能性があります。

車両がウイルスを運ばないために

農場の自家用車、集乳車、飼料運搬車、獣医師、人工授精師、薬品・資材業者、家畜運搬業者、関係団体など農場に出入りする全ての車両

- 農場に出入りする**全ての車両**は**洗浄・消毒、殺虫**を徹底！
- **車内に入り込んだ**サシバエ等も、確実に殺虫！

（特に寒い時期、サシバエ等は温かい車両に集まりやすく、車内にも侵入します。）

車体に集まったハエ



（資材（牧草ロールや敷料など）にもサシバエ等が入り込む可能性があるので、搬入時確認！）

人がウイルスを運ばないために

特に獣医師、人工授精師等、牛に直接触れる者

- 農場ごとに**専用の衣服、長靴（ブーツカバー）交換**の徹底！
- **注射針、人工授精用器具等**は確実に一頭ごとに交換又は消毒！
- **聴診器**等、**皮膚に接触する器具**も適切に消毒！

農場から農場への感染拡大防止！



農林水産省

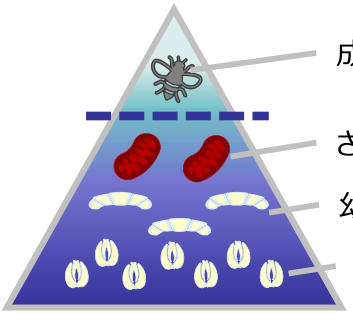
○○県○○○○家畜保健衛生所

春先に向けたサシバエ対策で牛を病気・ストレスから守りましょう！

農林水産省
九州農政局

はて？冬季のサシバエ対策？春・秋よりサシバエ見ないけど・・・

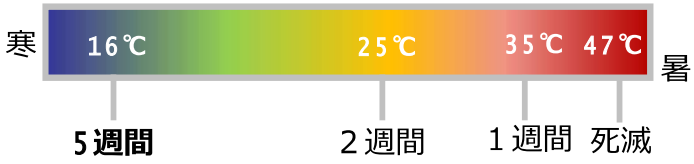
成虫がいる＝幼虫はもっと潜んでいる



目に見える
成虫20％

発生源
80％
成虫は氷山の一角！

温度とサシバエが卵から成虫になるまでの発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します・・・

1．幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは
隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーフペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は
バーンクリーナーへ散布！

2．成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から２ｍは防虫ネットで
覆えるようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！

殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

3．対策は地域ぐるみで！関係業者もご一緒に！

写真協力：鹿児島県内酪農家、（独）家畜改良センター宮崎牧場、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社、エランコジャパン株式会社

裏面もチェック

サシバエ対策、ここをチェック！

農林水産省
九州農政局

1 堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

はい → すばらしい！

いいえ ↓

IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

・バーンスクレーパーが通る前にバーンクリーナーに散布
・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

はい → その調子！

いいえ ↓

サシバエ幼虫は、堆肥等の管理＋IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫１匹は、生涯600個もの卵を産む。**冬の成虫１匹は来シーズンの１万匹に相当すると言われるほど、冬季対策が重要**。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！



子孫残セナイ…

2 牛舎内で八エ成虫をほぼ見ない

はい → みんなのお手本！

いいえ ↓

サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも**車内の殺虫を**お願いしましょう。



ココニハ 住メナイ〜

サシバエ成虫対策 ３つのポイント

１．殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。
殺虫剤が効きにくくなる前に、**系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していこう**。
十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

２．防虫ネットの設置

地面から2ｍ の高さまで床から天井に向けて設置。**穴が開いてないか**定期的にチェック。

３．下草刈りゃ防草シートの設置

サシバエが日中休息する**牛舎周辺の下草を刈ろう**。**防草シート設置も効果的**。

問合せ先：●●県●●家畜保健衛生所　XXX-XXX-XXXX

ランピースキン病（LSD）生ワクチン

【有効性】

・アフリカ、欧州、アジア等の発生国でワクチン接種が実施され、清浄化や発生数の減少を確認
・国際機関（WOAH、EFSA）もワクチン接種を撲滅のための最も有用なツールとして推奨

韓国の事例
2023年10月に初発事例を確認。発生後にワクチン接種を開始。
同年11月10日に全頭ワクチン接種を完了し、以後１年ごとに全頭接種継続。

	発生期間	発生件数
2023年	10月19日～11月20日	（１か月で）107件
2024年	8月12日～12月9日	（４か月で） 23件

発生件数が大幅に減少

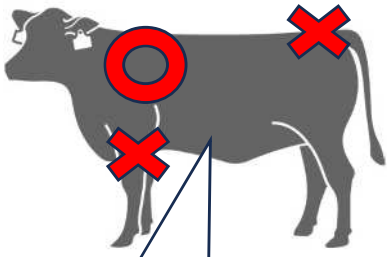
約９ヶ月間発生確認されず

出典：韓国農林畜産食品部プレスリリース（2024年12月９日現在）

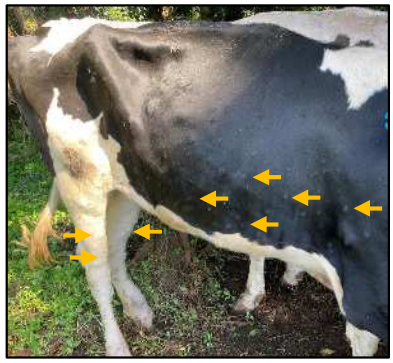
【安全性】

・副反応：
一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節（「ニースリング反応」）等が見られるが、通常は治療しなくても消失する。初回接種時に見られることが多い。

・海外では、LSDワクチンが15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上使用され、ワクチンによる重篤な症状等を示した事例はほとんどなかったことが報告されている。



頸部の接種を推奨！
（接種部位が腫脹しやすくなるため、尾根部や肘部等への接種は推奨されない）



国内で確認された発症牛の丘疹
（臨床症状だけでは副反応との識別は困難）

ワクチン接種後、同様の症状がみられた場合には家保にご連絡ください！

現在国内で接種可能なワクチン

ボビリス･ランピーバックス･イー
製品名：Bovilis Lumpyvax-E（MSD Animal Health社製）※
（弱毒生ワクチン）

※現時点では薬機法上の承認は取得していない





・農林水産省「ランピースキン病対策検討会」における専門家による議論の結果、
- 韓国等、複数の国で使用実績があること
- 一定の安全性及び有効性が確認されていること
等から、本ワクチンの輸入、備蓄を決定。

・効能効果：牛におけるランピースキン病の発症予防
ワクチン接種後10日～３週間で免疫効果が発現

・食品安全委員会により食品健康影響評価済み
“Bovilis Lumpyvax-Eを接種した牛に由来する食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度”

【国内で接種した事例】

	接種後の経過等
ケース１	初発事例確認５日後にワクチン接種。その後、発症牛なし
ケース２	初発事例確認日にワクチン接種。その後、発症牛なし
ケース３	初発事例確認３日後にワクチン接種。ワクチン接種５日後に新たな発生を確認。その後は発症牛なし。（接種前に感染、もしくは接種後免疫効果発現前に感染の可能性）

※本ワクチンについてのお問い合わせ先：農林水産省　消費・安全局　畜水産安全管理課、動物衛生課